

東陽中学校下(宝栄地域、深江地域)の避難所について

概要版

はじめに

宝栄地域と深江地域には、災害時避難所として「宝栄小学校」、「深江小学校」、「東陽中学校」及び「相生中学校」があります。小学校の避難所運営はそれぞれの地域で行い、東陽中学校は2地域が共同で運営します。また、相生中学校については、今後、運営方法を検討する予定です。

避難の考え方

災害が発生した際、移動に危険が伴う場合や自宅が堅牢なつくりの場合、また特に、新型コロナウイルスなどの感染症がまん延している状況下では、避難所へ移動することが最善の選択とは限りません。

災害が発生し、自宅に留まることが困難な場合、お住いの地域で決められている避難所へ移動していただくこととなりますので、どのような場合に避難するかをあらかじめ考えておきましょう。



避難所開設の基準

地震の場合	・震度5弱の地震が発生した場合、区災害対策本部の設置にあわせて「地域災害対策本部」を設置 ・震度6弱以上で区内の災害時避難所開設
風水害の場合	・(洪水等)警戒レベル3以上が発令された場合

*台風等の場合、避難勧告等発令されていない段階において、一時的に避難所を開設する場合があります。

東陽中学校避難所の役割と機能

役割

- 災害時、2 地域(宝栄地域、深江地域)が共同運営して活用する避難所とする。
- 発災から一定の時間が経過し、避難者数減少にともなう集約段階において、各小学校の避難所を閉鎖して、東陽中学校に集約する。
- 医師会との連携による災害時の救護所設置避難所とする。
- 災害時要支援者への対応が可能な避難所とする。

機能

- ① 避難者の受入れ、生活支援の機能
- ② 医師会による医療処置機能
- ③ 災害時要支援者への対応を行う福祉拠点機能
- ④ その他、必要に応じて次のような避難所として活用することも想定
例)・津波被害をともなう地震の場合、沿岸部地域からの避難者受入れ
・ペット同伴の避難者の受入れ(※飼い主の自己管理が前提)

運営にあたっての基本的な考え方と全体の流れ

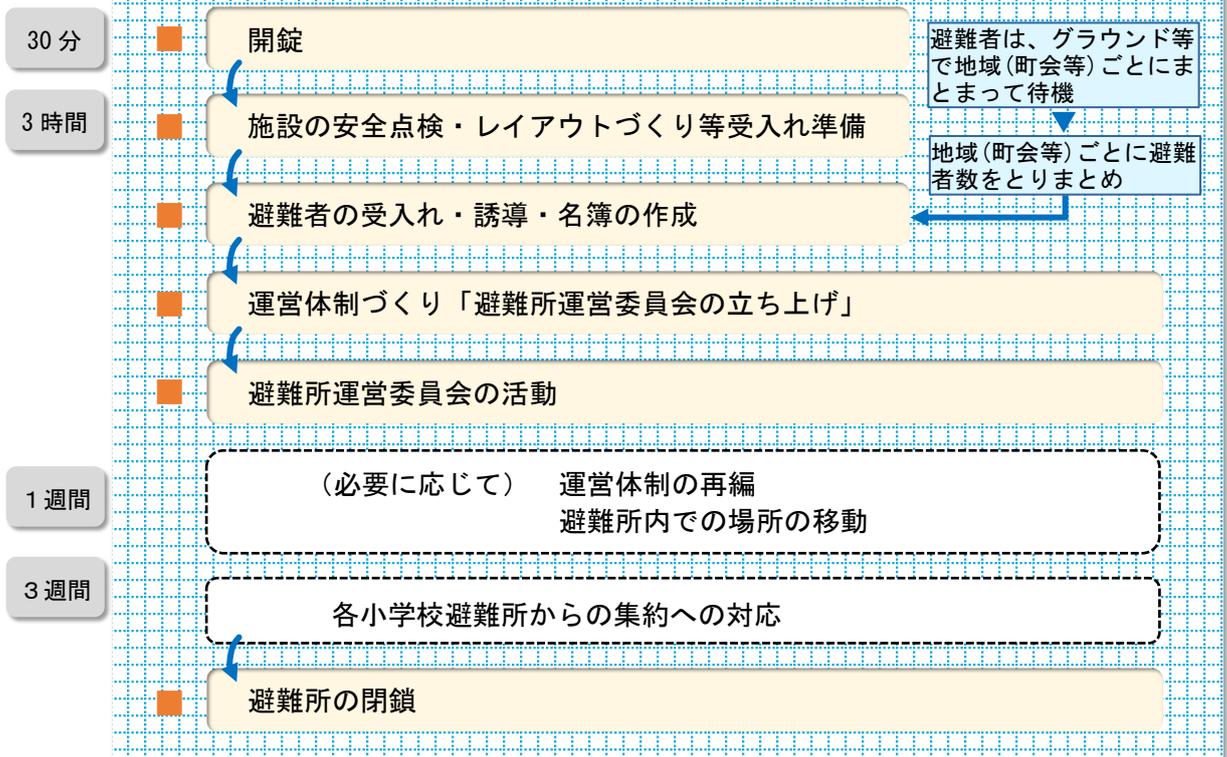
考え方

- 住民主体の避難所開設・運営をめざします。
- 2地域で連携・協力しながら運営します。
- すべての人にやさしい避難所づくりをめざします。

流れ

避難所運営の開錠から閉鎖までの流れ

時間の目安



運営体制

担当

- 宝栄地域、深江地域で避難所の開設準備、避難者の受入れ等を進める。
受入れ状況に応じて、下記連絡体制により、各地域災害対策本部と情報連携しながら、合同の運営体制を整える。
- 避難所運営委員会は、次の「役割分担」を基本として、避難者に協力を得て立ち上げるものとする。

役割分担

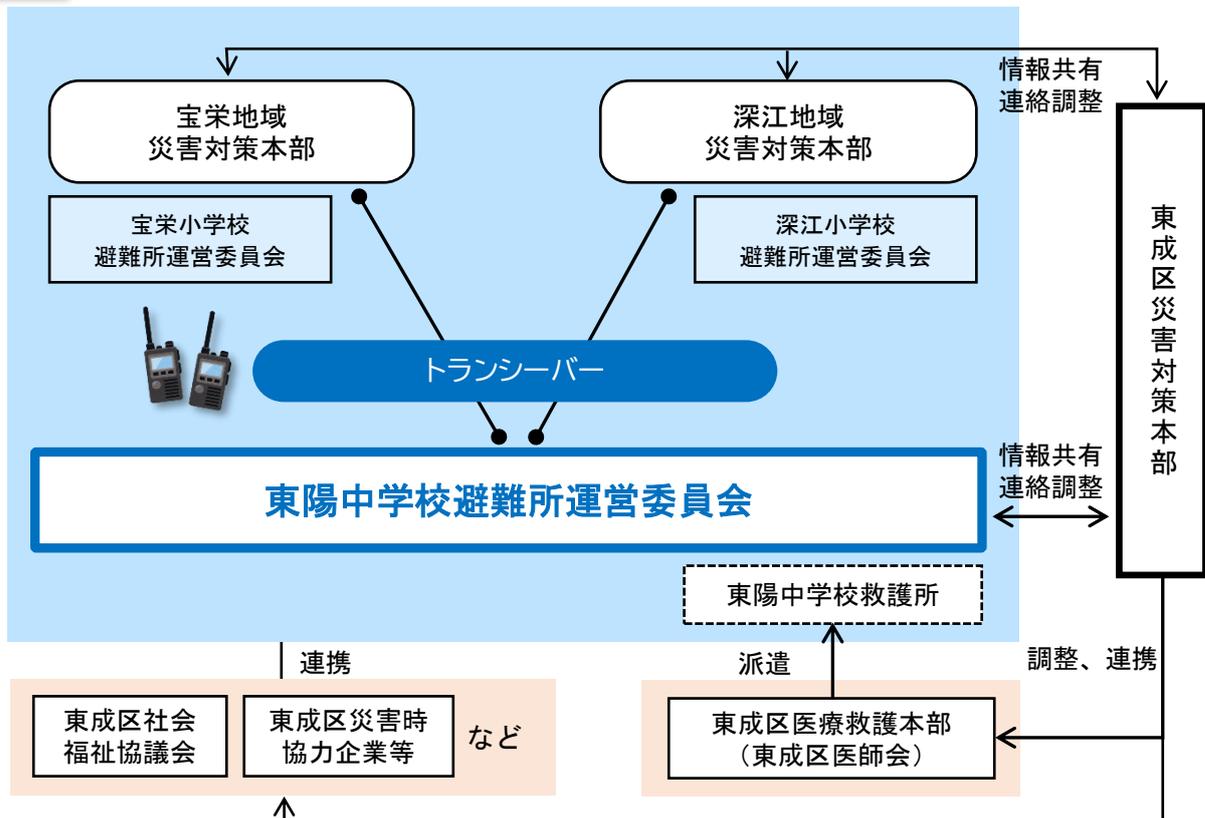
委員長	宝栄地域	副委員長	深江地域
-----	------	------	------

役割	宝栄地域	深江地域	班員
総務班	2名	4名	※班の構成にあたっては、 避難者の協力を得る。
管理班	2名	3名	
衛生班	2名	3名	
給食・物資班	2名	5名	

※全ての班は避難者の協力を得て運営します。
 ※想定している者が集まらない場合もありますので、その際は集まった者で役割分担を行います。

連携

連携・情報連絡体制



日ごろから取り組んでおきましょう！

- 日ごろから定期的に訓練を実施し、東陽中学校避難所の「開設・運営の手順」や「各地域における役割」「各班の活動内容」等を確認しましょう。
- 訓練は実施ごとに内容の見直しや難易度を上げるなどのステップアップを試み、地域住民も含めた意識の向上を図りましょう。
- 訓練を通じて得られた課題は、2 地域で改善方法を話し合い、必要に応じて本マニュアルも見直しましょう。



災害に備えて各家庭でも取り組んでおきましょう！

右の情報などを参考に、日ごろから備えましょう。

- ハザードマップなどを確認して自分の地域のことを 

- いざという時には、隣近所や地域での助け合いが重要。避難所生活もコミュニティ単位が基本。日ごろから自分の町会などを 

隣近所など、顔見知りになっておこう！

- 自分の地域の避難所、避難所までのルートなど、災害時の行動を 

- 家庭での備蓄（3日～1週間分の水や食料など）、非常持ち出し袋の準備ができているか 

自分に必要な薬なども準備しておこう！



▲ 市民防災マニュアル

